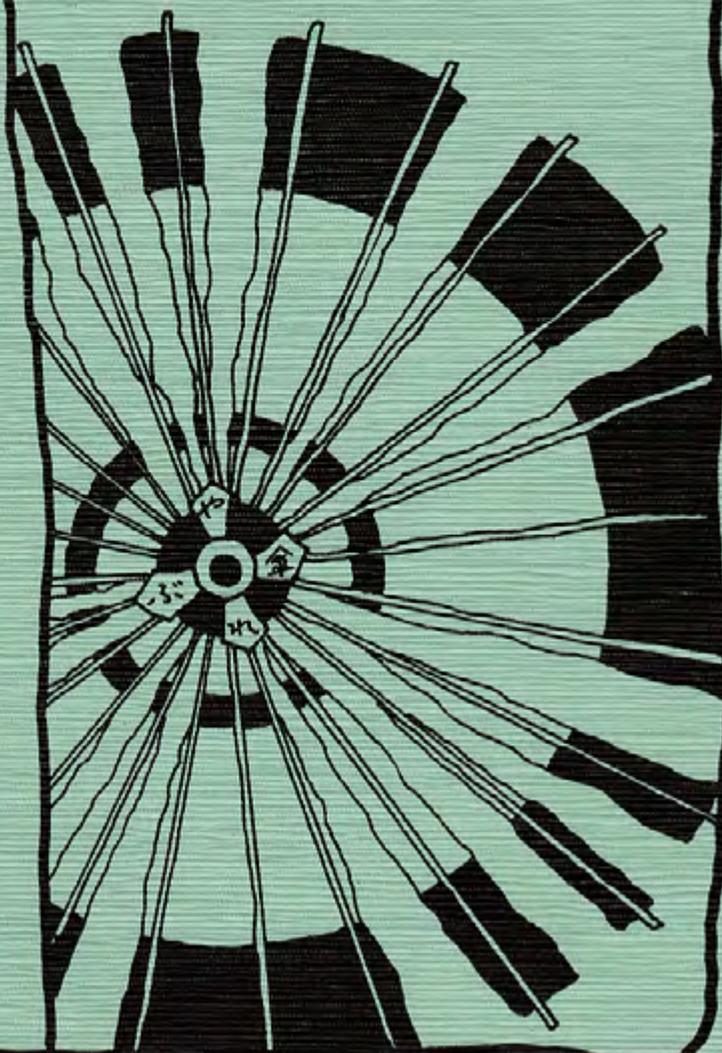


やぶれ傘



一〇六号

二〇一九年二月

エンジンを切つて舟くる雪もよひ 根橋宏次

冬の日がブロック塀の穴を抜け 大島英昭

霜柱そろそろ育ちきる時刻 きくちきみえ

蕎麦園に庭師来てゐる六日かな 廣瀬雅男

枯れ芝へ雀ほとりと下りて昼 藤井美晴

星飛ぶと云ふから起きてゐる霜夜 青谷小枝

綿虫飛ぶチエックアウトをして出れば 丑久保 勲

老人が葱をつかんで通りけり 白石正躬

教室は午後の授業に龍の玉 渡邊孝彦

樽酒の量り売り買ふ小晦日 瀬島洒望

寒灯ホットミルクを飲めば膜 小山よる

五重塔過ぎ松過ぎの朱印所へ 安藤久美子

凍滝へ百の階段一歩づつ 天野美登里

新雪にシユプール描くパラレルで 有賀昌子

空つぼのベンチに銀杏落葉かな 秋山信行

抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選

カフェにひとり平成最後の大晦日 松村光典

たけなはの鍋に白菜放り込み 高橋 均

束の間の日差しにとべり冬の蝶 中島和子

暮れの街喜捨する人を撫でる僧 橋本美代

昆布巻は自慢のひとつ節料理 本郷美代子

日も欲しや風も欲しやと干菜吊る 武藤節子

境内に持て成しテント水仙花 森 美佐子

屠蘇回す下戸も一座に加はりて 浅嶋 肇

窓覆ふ板子の横の懸け大根 石原健二

ライトバン後部を開けて飾売り 大野芳久

初詣小さき社へ犬連れて 神山市実

箸紙に名を書くことも無くなりて 木村瑞枝

晴天や空の半分いわし雲 忽那みさ子

神木の櫛に触るる初詣 齋藤朋子

蕎麦を干す均しの音の聞こえ来る 眞田忠雄

冬 牡 丹

大崎 紀 夫

ゆるゆると牡蠣舟もどるころ晴れて
雪しづる音は朝市閉づるころ
仲見世の裏に日のある十二月
山羊がゐて犬小屋は空冬の虹
敷き藁のややずれてゐる冬牡丹

雲ゆくを眺めぼつぺん時に吹き
竹やぶに北風道にからす立ち
一月がゆくからからに空乾き
ぴつたりと風やんでゐる浮寝鳥
冬ひばり向う岸より揚がりけり
夕凍みの櫂の枝にゐる雀
北風と電車が通過する風と

雪もよひ

根橋宏次

エンジンを切つて舟くる雪もよひ
大根を掛けて左の端まぶし
人参の畑にくれば海の音
岬への道は上りに花アロエ
このところほつたらかしの茎の石
冬萌は田んぼのへりに中ほどに
年頭にあたり両手を回しけり
石段のほどよき蹴上げ梅早し
雪吊の中を鳥がすこし跳び
蠟梅が匂ふよバスが揺るるたび

霜の道

大島英昭

枝道の先に枝道枇杷の花
大根の屑が積まれてゐるにほひ
小流れに落葉と空の切れつ端
きりきりと鳩のひと鳴き空暮れて
枯れ蘆を左に右の川に沿ひ
新しき塔婆が五つ六つ冬日
丁度日がまはつて来たる枯薊
畑中の一間の霜の道
堰落つるまでのつたりと冬の川
冬の日がブロック塀の穴を抜け

霜 柱

きくちきみえ

傘の柄のむきむきにある忘年会
山茶花の咲いて葉表輝いて
エナメルの靴クリスマスケーキ買ひ
大小の雲の寄り合ふ初閨魔
白バイのウターンする雪催
霜柱そろそろ育ちきる時刻
新宿駅ホームに使ひ捨てカイロ
冬晴れの風の吹きくる方が駅
閨少し菠稜草の茄で汁に
一月の上り方面よりの風

六 日

廣瀬雅男

行く雲を映してゐたり冬の沼
道の辺に冬たんぽぽの二つ三つ
五六本庭の木に干す大根かな
日向ぼこしながら靴を磨きけり
門松をほめてそば屋に入りけり
雲ひとつ浮かべて四日晴れにけり
薔薇園に庭師来てゐる六日かな
水仙を咲かせ布袋を祀る寺
まんまるな石置く墓や寒雀
甲高く鳴いて鳥来る冬の梅

寒雀

藤井美晴

裸木の先なる星の先の空
枯れ芝へ雀ぼとりと下りて昼
雪国の三日の夜が更けにけり
正月の花へ薬缶の水を注す
小蜜柑を挽ぎて生家の門かどに入る
いささかの草が残れる火事の跡
野良猫の食ひさしに来て寒雀
枯庭の日向に二つ傘を干す
焼芋と葛根湯を買ひに行く
灯が映る霰のあとの水たまり

冬の星

青谷小枝

けものみち行けば紅葉の散りに散る
カフエラテの泡に灯のあるクリスマス
手のひらで軽くはたきて布団干す
叱るとき吸つてから吐く冬の息
悴みてパスモで払ふ缶コーヒー
雪雲へ近づいて行く湖西線
鳥五羽十羽二十羽大枯野
白鳥を見に行く橋を二つ越し
半月のその右上に冬の星
星飛ぶと云ふから起きてゐる霜夜

綿 虫

丑久保勲

物置の脇にリヤカー木瓜の花
硝子戸を開けて掃除をする小春
猫の額ほどの冬田にゐる雀
十五分歩いてゐれば暮れ易し
綿虫飛ぶチェックアウトをして出れば
数へ日の石油タンクの貨車の列
枯れ櫛三の鳥居をはるかにし
底冷えを来てバーバーのドアを開け
大櫛伐られし後の冬の空
道ばたの柳落葉のうすみどり

葱

白石正躬

積み上げて枯菊燃やす朝の月
霜の朝渡船場発のバスが出る
水仙をゆする風くる畑の端
老人が葱をつかんで通りけり
山眠る中を下山の鈴の音
日向ぼこ場所を得たるが風が来て
土手に立つ空真青なる大旦
命ぽこぼこと二日の土手のもぐら塚
人日の畑に野菜をとりに出る
マラソンのびり見えてくる冬霞

大使館

渡邊孝彦

雨靴が要るほどの降り石路咲けり
渋谷行き三時の電車冬ぬくし
菊枯れて祠の裏に猫車
枯葎壁の向かうは大使館
草枯れて崖の上なる日向道
水仙を湿らす程の昼の雨
鴨川の河原へ来たる初鴉
教室は午後の授業に龍の玉
鉄棒と葉牡丹暮るる公園に
公園の外周コース寒椿

樽 酒

瀬島酒望

熱湯を即席めに霧の夜
山の端に冬の入り日が触れにけり
飛鳥山冬の草間に番鳩
冬耕の済みし畑を歩く猫
歩くひと走るひと見て日向ぼこ
盃をぐい呑みに替へにごり酒
雪吊りの残りし縄をリヤカーに
樽酒の量り売り買ふ小晦日
読み初めは嘶家書きし江戸めぐり
庭石に見え隠れして寒雀

咳

小山よる

咳をする人より五ミリ離れけり
天窓に雨降りし跡冬紅葉
ライターがカチツと寒き喫煙所
賀状書く机にジャリと砂糖粒
タイマーで消えしストーブまた点けて
寒灯ホットミルクを飲めば膜
春待つや真つ黒焦げのパンケーキ
春近し不意に見つかるペンダント
起きがけの一番にかむ水つ洩
駅員の指さしの声冴ゆる夜

隙間風

安藤久美子

落葉踏む音の湿りて来たりけり
白息へ白息母と子の会話
ラーメンに厚き焼豚隙間風
大硝子より浅草の正月を
数の子の音を楽しみぬるしま
軒深く雪の降り込むひもすがら
五重塔過ぎ松過ぎの朱印所へ
石橋を潜り左右へ冬の鯉
遠山に雪雲座るひと日なり
蠟梅の香り立つ日の午後は風

凍 滝

天野美登里

更けてより雨となりけり卵酒
小春日の猿山の猿指くはへ
空港へながき橋行く霜の朝
敷石のうへを猫ゆく竜の玉
手に馴染む形見の指輪藪柑子
走り来る人を待つバス冬日和
餅花や三和土を点す豆電球
櫓や二階の窓に腰かけて
凍滝へ百の階段一歩づつ
冬深む川の流れに浮くあぶく

シュプール

有賀昌子

アイロンのよく滑る日や神無月
解けさうで解けざるパズルみかん剥く
帰り花ブロンズ像に錆び少し
道ばたの無人売場に葱二本
公園の木馬明るし枯木に灯
短日の酒饅頭の湯気に列
短日の段差に転ぶ常の道
新雪にシュプール描くパラレルで
女正月海老をかりつと揚げにけり
宅配のバイクにひかる賀正の字

ベンチ

秋山信行

空つぽのベンチに銀杏落葉かな
敷藁に雨のしみゆく冬菜畑
寒木瓜や父の好みし石燈籠
手水場に鳥の来てゐる青木の実
白菜の締まり具合を両の手で
糠漬けをし終へて妻の柚子湯かな
今一度ファイブイヤーの日記買ふ
木喰の住みし小屋なり冬日差す
深山路の賽銭箱に積む落葉
四日はや路地に吹かるるレジ袋

冬の夕日

松村光典

山茶花が紅の絨毯丸く敷く
北風の奔る道まであと十歩
なんとなく小走りになる年の暮れ
丸き月のうさぎを探す忘年会
ここも列あそこも列の師走かな
山茶花の夕陽に映えるバスの道
踏んでみる银杏落葉の吹き溜まり
カフェにひとり平成最後の大晦日
おお眩し冬の夕日に手をかざす
風を横に向ひにペダル漕ぐ

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
4月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン1	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	浜離宮	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月のNHKは3月1日(金)と3月29日(金)の2回です。

4月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は浜離宮正門前。

JR新橋駅・汐留口から地下を東に。電通ビルに突き当たったら地上に出る。

そこからすぐ。句会場は森下文化センター。地下鉄大江戸線で移動。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856